

## 8

## 中国四国ブロックのHIV医療体制整備

## —HIV感染症の医療体制の整備に関する研究（中国四国ブロック）—

研究分担者 藤井 輝久

広島大学病院輸血部 准教授

## 研究要旨

本研究では、HIV陽性者の非専門施設への受け入れを構築するために、資材の開発や研修の開催を行っていたが、新型コロナウイルス蔓延防止の観点より、集会型の研修会開催は困難と判断し、オンライン会議ソフトZoomを用いたオンライン研修を行った。会場費の節減、研修者は現地集合しなくてもよいなどのメリットはあったものの、事例検討など患者のプライバシーに関する事項の討議に特別な配慮が必要であることが分かった。また薬害被害者検査入院についても、新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言等により、県境を越えて本院で受検することは困難と考え、今年は、通院患者を中心に「薬害被害者対象検診外来」を行った。次年度以降の研修会の開催や検診の方法について、示唆に富む研究を行うことができた。

## A. 研究目的

本研究の目的は中国・四国地方のHIV感染症の医療体制の整備を行うことである。具体的には、エイズ拠点病院・中核拠点病院のエイズ診療の質の向上とその維持を確保するために、研修会の開催や教育資材の配布を行って、ケア提供者の人材育成と資質の向上を図ることである。さらに、疾患の予後の改善により、エイズ拠点病院一施設で全人的な医療を提供することが困難となっている現状を踏まえ、非専門施設や高齢者を受け入れる介護施設等にも、その教育内容を広げて行く必要がある。また以前から薬害被害者より要望のある「血友病」のケアにも重点をおき、当該患者の高齢化および余病に対応する研究も行う。具体的にはHIVだけでなく、血友病にも対応できる医療機関・施設を増やし、スムーズな「病診連携」を実現するための研修内容や教育資材の改良を行うこととした。

## B. 研究方法

研修会に関しては、その参加者数と参加者アンケートなどを集計し、その内容や評価を集計した。その際に、個人情報と思われる項目を除いた。またこの研究においては、施設の倫理委員会の承認を得て

おり、これらをもって倫理面への配慮とした。教育資材は、日常診療における患者、特に薬害被害者の要望あるいはブロック内の医療・介護従事者のニーズ等を勘案し作成した。また新たな情報が得られた場合には、資材に反映させるために、アップデートを行った。

## C. 研究結果

## [1] ブロックでの教育研修

## 1-1. 医師を対象とした研修会

開催日：2021年9月27日（オンライン）。広島大学病院より発信。参加医師数：計3人。

昨年同様、現地参集で2日間、2回行う予定であったが、新型コロナウイルスまん延防止の観点から、オンラインで1日のみの研修を1回のみ行った（表1）。内容は、各職種からの講義が中心となったが、参加者からは「オンラインの方が参加しやすいかも」「往復の時間の節約になる」など、開催形態を好意的に捉えている声が上がった。内容については「PWH/Aの体験談」が、評価が高かった。なお、各職種の講義資料は、昨年同様「広島大学病院エイズ診療医のための研修会・資料集」としてまとめた（図1）。

表1 2021年度医師向け（オンライン）研修会のプログラム

午後	
13:00	ZOOM 開始
13:15	集合・オリエンテーション 担当(医師); 山崎尚也
13:30	講義: HIV 感染症(診療の現状と最近の話題) 医師: 藤井輝久
14:45	講義: 薬剤師の役割 薬剤師: 石井聡一郎
15:45	講義: 看護師の役割 看護師: 佐々木美希
16:15	講義: ワーカーの役割 MSW: 村上英子、大成杏子
17:00	講義: PWH/A の体験談 担当: シゲさん
17:30	まとめ及び ZOOM 終了

## 1-2. 歯科医師を対象とした研修会

### 1) 拠点病院勤務医師及び歯科医師会向け研修会

開催日: 2021年10月24日、場所: 岡山国際交流センター(岡山市)。開催形態は集合で、午後の会議に併せる形で、当日午前中に行った。コロナ禍にも関わらず研修参加者は歯科医師・歯科衛生士併せて計23人であった(3人オンラインでの参加含)。はじめに大阪市立総合医療センター 感染症内科副部長の白野倫徳医師より「HIV感染症の基礎と最近の話題～特にCOVID-19との関連について～」の講演があった。次に大阪HIV薬害訴訟原告団の橋本則久氏より「歯科への期待のメッセージ」が述べられた。会議の内容は、各県の「HIV歯科診療体制」についての報告であり、鳥取、山口各県の歯科医師会の代表が現状の取り組みが報告された。また広島県歯科医師会から「広島県HIV歯科診療ネットワーク室の構築からこれまでの活動状況について」の報告があった。

広島大学病院  
エイズ診療医のための研修会

資料集

Ver 1: 2021年度版  
HIROSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL

**CAPSID INHIBITOR: Lenacapavir**

Lenacapavir: A long-acting first-in-class HIV capsid inhibitor

Lenacapavir: Sustained exposure following subcutaneous injection

6ヶ月に1回、皮下注！  
導入時のみ内服(計3回)

PK supports subcutaneous q6m administration for HIV treatment and prevention

**CALIBRATE: Study Design**

- ランダム化、オープンラベル、コントロールされた、第II相導入・維持試験

if HIV-1 RNA <50 c/mL at Weeks 16 and 22\*

Group	Induction (Weeks 0-15)	Maintenance (Weeks 16-84)
Group 1 (n=52)	LEN 2-wk oral lead-in <sup>†</sup> → SC 927 mg Q6M + FTC/TAF 200/25 mg QD	LEN SC 927 mg + TAF 25 mg PO QD
Group 2 (n=52)	LEN 2-wk oral lead-in <sup>†</sup> → SC 927 mg Q6M + FTC/TAF 200/25 mg PO QD	LEN SC 927 mg + BIC 75 mg PO QD
Group 3 (n=52)	LEN PO QD <sup>†</sup> + FTC/TAF 200/25 mg PO QD	LEN PO QD <sup>†</sup> + FTC/TAF 200/25 mg PO QD
Group 4 (n=25)	BIC/FTC/TAF 50/200/25 mg PO QD	BIC/FTC/TAF 50/200/25 mg PO QD

\* 600 mg on Days 1 and 2, 300 mg on Day 8, followed by LEN SC 927 mg on Day 15.  
† 600 mg on Days 1 and 2, followed by 50 mg from Day 3.  
†† HIV-1 RNA <50 copies/mL, discontinuous study at Week 84.

- 一次アウトカム: 54週での HIV-1 RNA <50 copies/mL の患者の割合 (%)
- 二次アウトカム: 28週、38週、80週での HIV-1 RNA <50 copies/mL の患者の割合 (%); 28, 38, 54, 80週での log<sub>10</sub> HIV-1 RNA と CD4+ 数のベースラインからの変化

Slide credit: clinicaltrials.gov

### 最新のデータを和訳して紹介

図1 エイズ診療医のための研修会プログラム資料集

## 2) 一般開業歯科医向け研修会

開催日：2021年11月28日、場所：安佐南区民文化センター（広島市）。広島県に限らず、全国的に新型コロナウイルス感染が一時的に収まっていた時期であり、集合にて行った。講演者は、おだ内科クリニック高田昇医師及び本院輸血部の山崎尚也病院助教、県立広島病院総合診療科・感染症科宮本真樹医師であった。研修会終了後、参加者に対してHIV感染症に関するアンケートを実施し、内容について“非常に良い”との回答が多かった（図2）。またこの研修会を契機に、新たに自施設（歯科クリニック）でHIV陽性者を受け入れてよい、として「広島県HIV歯科診療ネットワーク」に参加を希望する施設があった。

### 1-3. 看護師を対象とした研修会

（広島大学病院内でWEB開催）

#### 1) 基礎コース（2回）

開催日：2021年6月24～25日、7月29～30日。共にオンラインで開催した。参加人数は2回の合計で16人。

参加者の勤務施設、症例経験数などは（図3）のとおりであった。県別参加者は愛媛の1人を除いて、広島県内であった。役職別では、主任または副師長がほぼ半数を占め、続いて一般スタッフであった。また昨年度と同様にHIV感染/エイズ患者の看護未経験者が75%と多かった。参加者の勤務領域は血液内科が最多で、続いて手術室、総合診療科であった。受講動機は、「基礎知識の習得（自己研鑽）」が参加者全員で一番多く、ついで「今後患者が来た際に対応できるようになる」であった。

研修後、参加者全員にアンケート調査を実施した結果は（図4）の通りであった。内容については、全内容「大変分かりやすい」が最多であり、中でも「心理支援」「歯科」「薬害患者の声」「性の多様性」については、その比率が90%を超えた。

#### 2) アドバンストコース（経験者向け）

新型コロナウイルスまん延防止の観点より、今年度は中止とした。グループに分かれての事例検討が主な内容になるため、オンラインで行うことは、技術的にもプライバシー保護の面でも問題があり、困難と考えたからである。

### 1-4. 中国四国ブロック内の拠点病院に勤務またはその院外薬局の薬剤師を対象とした研修会

2021年9月23日に、TKPガーデンシティ広島駅前（広島市）でのZoomを使用したオンライン開催。参加者は187人であり、中四国ブロックの拠点病院以外にも、院外薬局薬剤師28人、広島県内の拠点病院以外の薬剤師47人の参加があった。

例年、専門カウンセラーおよびソーシャルワーカーと一緒に2日間の研修会を実施していたが、昨年度に続き今年度も、新型コロナウイルスまん延防止の観点からWEB講演の形式にて開催した。抗てんかん薬との薬物相互作用について血中濃度測定を実施した症例について、広島大学病院薬剤部の田中まりの薬剤師より講演を行った。地方拠点病院薬剤師の取り組みとして地域医療連携の視点から、愛媛大学医学部附属病院薬剤部の井門敬子薬剤師の講演があった。昨年に引き続き、大阪医療センター医療ソーシャルワーカーの岡本学氏より、MSWの視点からHIV患者・血友病患者での入退院支援において薬剤師に期待される役割について、講演があった。HIV患者・血友病患者での医療制度について学びになり、薬剤情報を正確に伝えることを薬剤師間で積極的に行ってほしいことが伝えられた。また、東京医科大学病院臨床検査科の村松崇医師からは、長期療養時代のHIV診療について講義があり、高齢化・長期合併症の対策、肝炎・性感染症の対策、女性・セクシャルマイノリティへの医療、拠点病院完結型の医療から地域完結型の医療への対応を学ぶことができた。

### 1-5. エイズ拠点病院に勤務するメディカルソーシャルワーカー（MSW）を対象とした研修会

開催日：2021年10月16日、Zoomを使用したオンライン開催。会議参加者：中国四国ブロックエイズ拠点病院25施設、41人。研修会参加者：前者に加えて、非拠点施設所属3施設、3人。従来通り、HIV感染症を担当するソーシャルワーカーを対象に実施した。本年度は、血友病薬害被害者支援と地域ネットワーク構築をテーマとした。

研修に先立ち拠点病院間の情報共有も兼ねて開催した会議では、各施設のHIV陽性患者の支援状況、院内外のHIV関連活動を報告した。また、血友病薬害被害者支援において活用出来る社会資源や、その留意点について共有した。

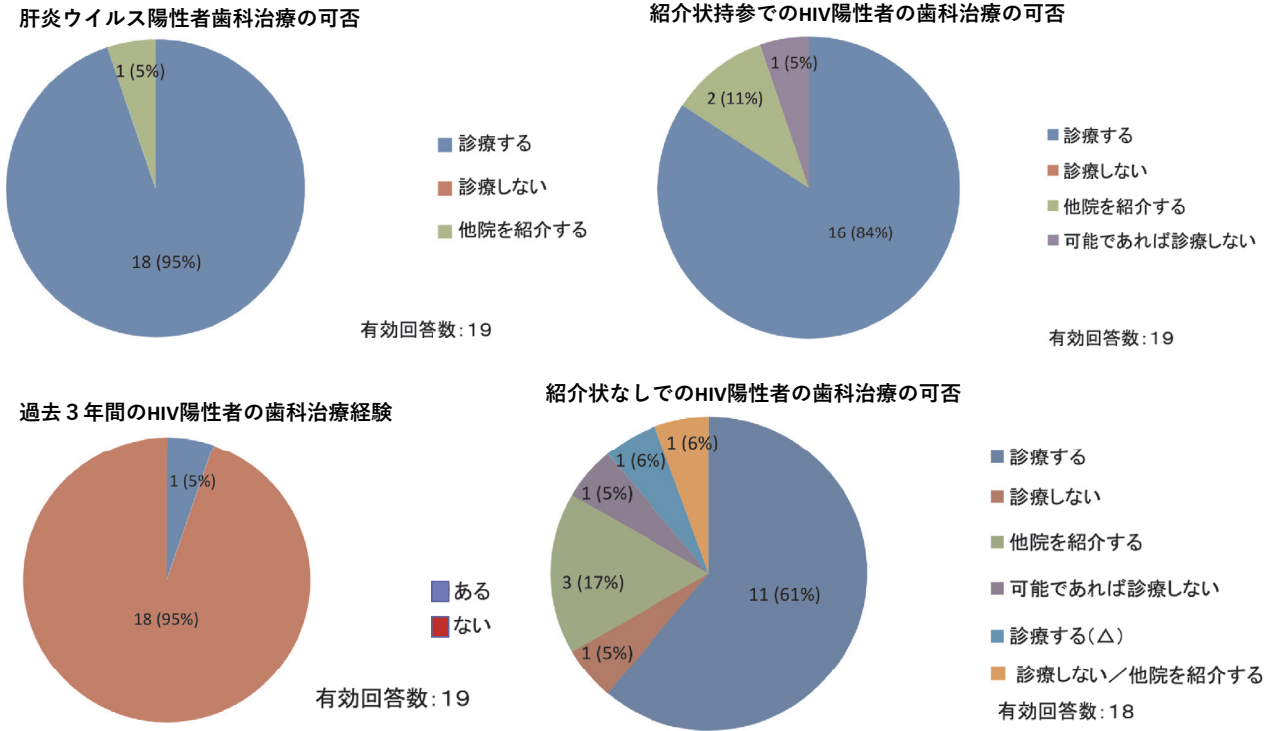


図2 拠点病院勤務医師及び歯科医師会向け研修会アンケート結果

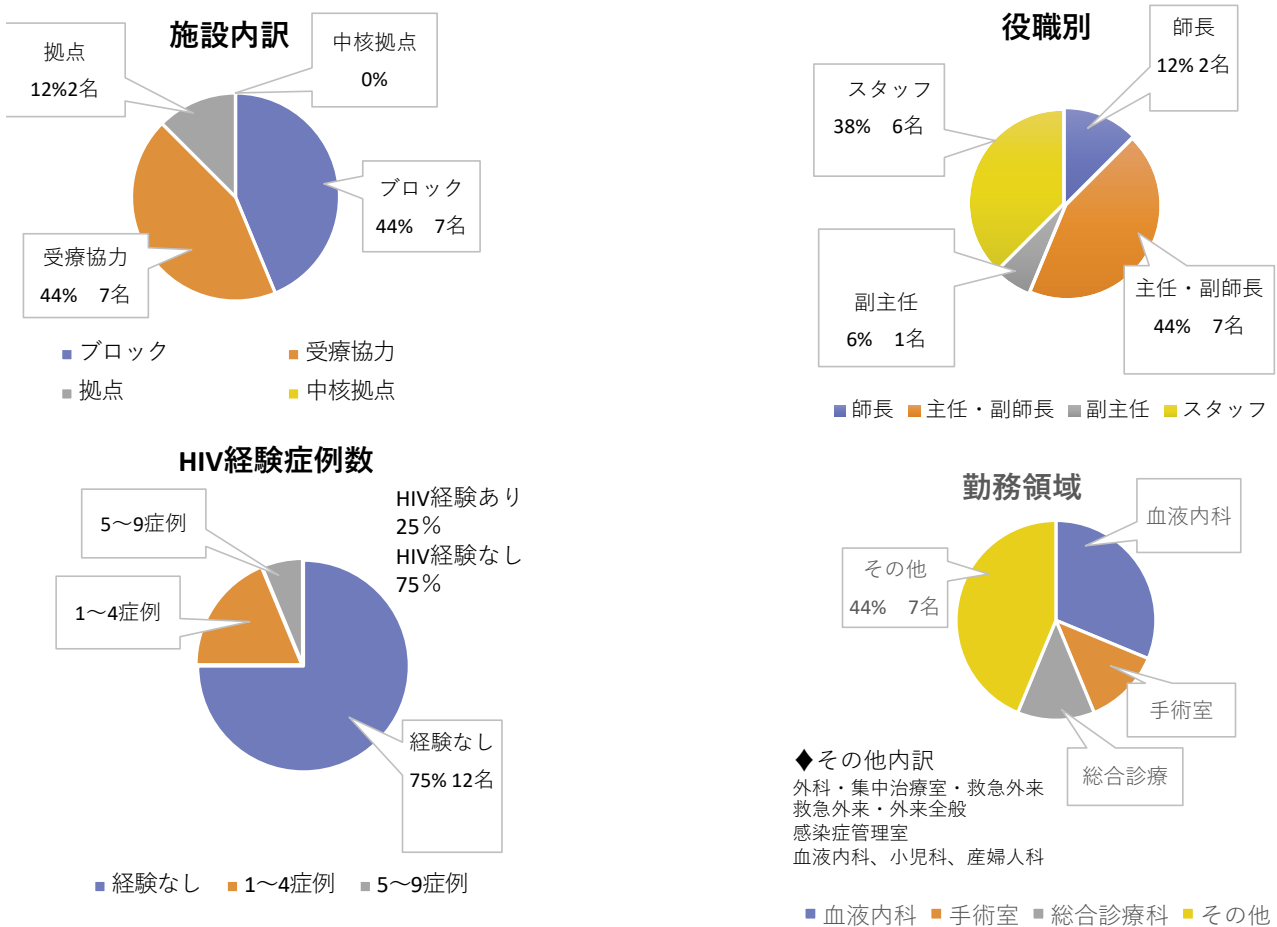


図3 看護師のためのエイズ診療従事者研修会参加者の背景



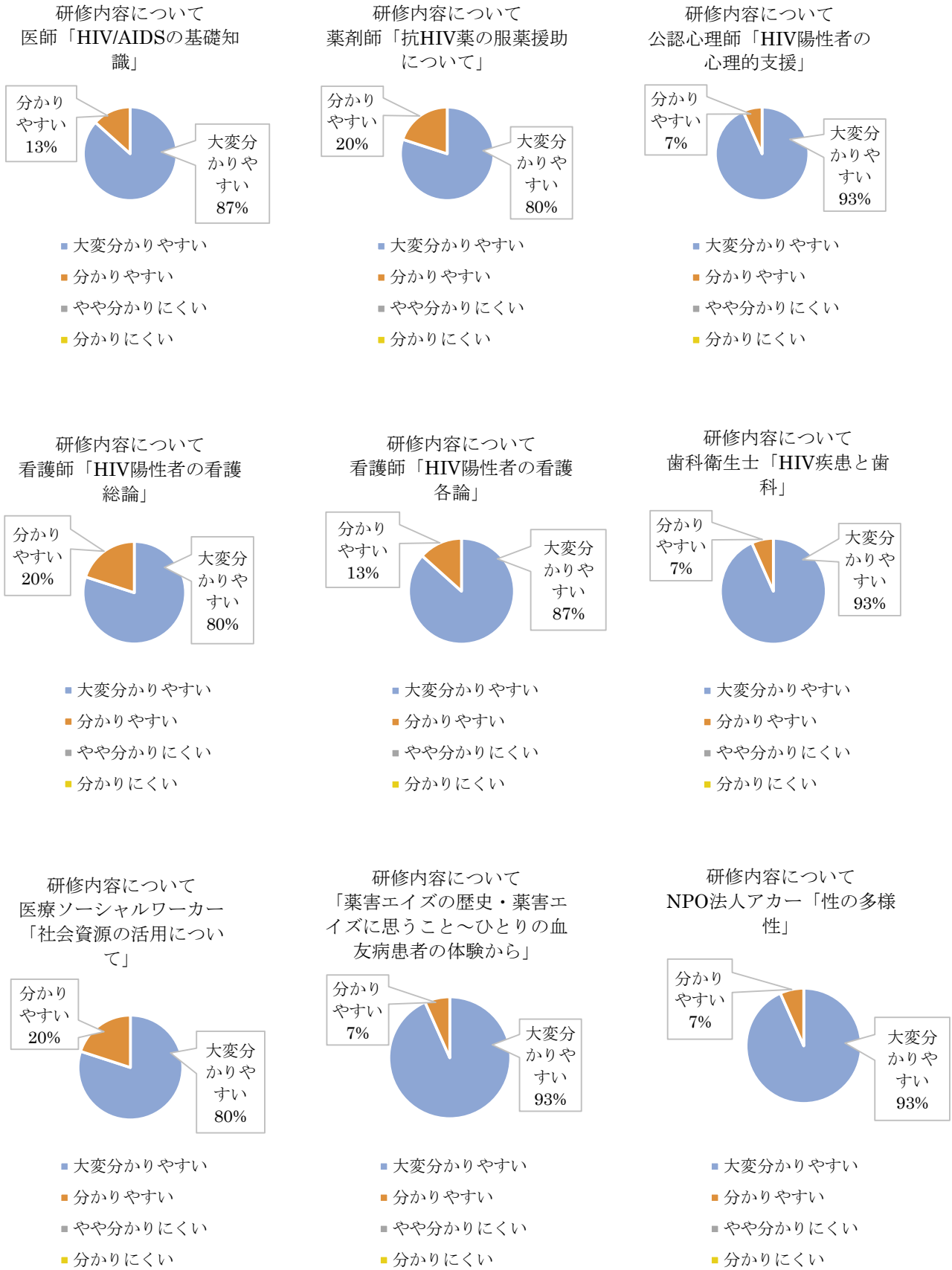


図4 看護師のためのエイズ診療従事者研修会アンケート結果

研修では、「HIV感染症の基礎知識・最新情報」、大阪原告団理事による「血友病/HIV/HCVと共に生きる一薬害エイズの教訓から」、千葉大学医学部附属病院地域医療連携部ソーシャルワーカーの葛田衣重氏による「HIV陽性者地域支援ネットワーク構築に向けたソーシャルワーク活動」の3つの講義を提供した。講義後、各参加者を地域毎にグループ分けして、現在活用中のネットワークの共有と、既存のネットワークをいかにHIV陽性者に活用出来るか等を中心に議論した。

事後アンケートでは、「治療後はウイルスの数が減り、他者への感染リスクが劇的に減り、ゼロになることもあるという話は驚きもあり、勉強になった。同時に私同様に知識が無く漠然としたイメージしかない方が多いのだろうとも思った。」「薬害エイズがどの様に発生し、どれだけの方が被害を受けているのか、その背景に何があるのかを学ぶことができた」「ネットワーク構築は私たちの仕事の一環であり、地域を知ることが必要だと改めて感じた」「参加したグループには、拠点病院のソーシャルワーカーだけでなく他領域の参加者がいたので、広い視点での気づきと学びになった」などの感想がみられた。

最終的に、資料集として冊子にまとめ、参加者並びに中四国内の全拠点病院宛に配布とした。(図5)

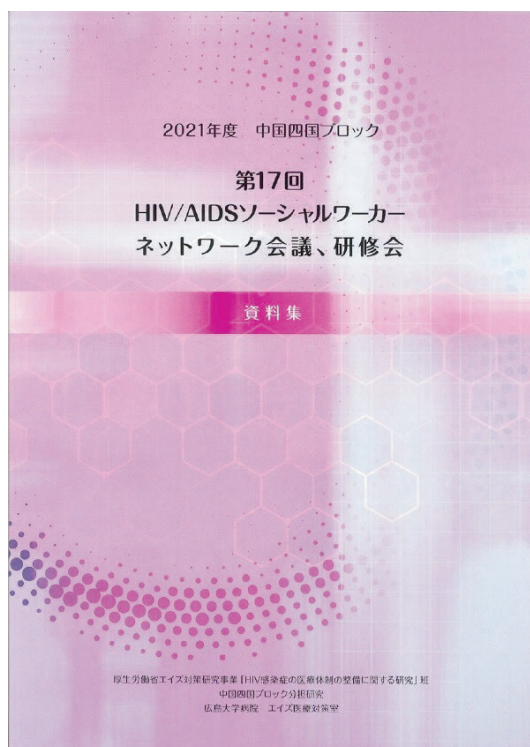


図5 ソーシャルワーカー会議、研修会資料集

## 1-6. 出前研修

コロナ禍に対応してオンラインでの研修を提供できる体制を整えたが、実地での研修を望む声があり、障害者グループホーム1施設に対して、実地で研修を実施した。参加職種としては、施設職員、相談支援専門員、サービス管理責任者で、所持する資格は介護福祉士、介護士、保育士、社会福祉主事等であった。

その施設で、本院受診中の患者の受け入れを依頼しているが、医療関係者がいないため、最初は受け入れに対する不安が高かった。しかし、研修後は安心して受け入れに向けて対応して頂いている。

長期療養支援の体制構築に向け、広島県内で透析を行う施設を対象に研修案内を送付した。複数施設より研修内容の問い合わせがあり、以前受入準備が整わず受け入れが実現しなかった施設に研修を実施する予定である。

## 1-7. その他

「その他」とは、実施主体（主催）が本院ではないが、分担研究者やその研究協力者が研修の立案に大きく関与し、かつスタッフとして協力した研修会である。

### 1) 心理職対象 HIV カウンセリング研修会(初級者向け)

開催日：2021年6月26日～6月27日。オンライン（Zoom）開催。今年度は、中国四国ブロック内のHIV治療施設に勤務する心理職及び福祉職およびHIV派遣カウンセラー、HIV領域に関心のある23人が参加した。本研修会は、日本学術振興会科学研究費補助金事業による研究「身体領域における公認心理師の本格活用の促進：卒後養成プログラムの開発」により作成された「新任者養成プログラム」を活用し、オンラインで開催した。参加者の多くは、HIV診療機関に勤務しているものの、HIV感染者への支援経験がない者や派遣カウンセラーとして登録しているが数年活動していないため、知識のアップデートを目的に参加した者が多かった。研修会では、HIVの基礎知識や患者の心理、身体疾患領域におけるチーム医療など幅広い内容の講義と演習を行った。事前・事後アンケートを比較すると、HIV基礎知識・HIVカウンセリングに関する知識だけでなく、他職種・他機関連携の理解度で得点の大幅な上昇がみられた。

## 2) HIV/AIDS 専門カウンセラー研修会

開催日：2021年9月12日。オンライン（Zoom）開催。本研修会は、HIV/AIDSのより専門性を高めることを目的に開催しており、中国四国ブロック内のHIV治療施設に勤務する心理職及び福祉職およびHIV派遣カウンセラー、HIV領域に関心のある31人が参加した。HIV感染症の医学的知識と心理社会的問題と支援に関する講義に加え、情報交換を含めてグループディスカッションを行った。事後アンケートでは、「コロナ禍ではあるが、オンラインで継続的に知識をアップデートする機会があり勉強になった」、などの記載があった。

## 3) HIV 抗体検査相談従事者のためのカウンセリング研修会

開催日：2021年12月10日。オンライン（Zoom）開催。新型コロナウイルス感染拡大により、保健所ではHIV検査を中止するなどの状況が続いており、HIV検査の相談場面や検査対応の実践機会が大幅に減少していたため、県からの要請もあり、急遽オンライン形式で本研修会を開催した。今回、中国四国ブロック内においてHIV抗体検査相談に従事する医師、保健師および派遣カウンセラーを対象に開催し36人の参加があった。HIV検査に関する講義と当事者の話の後、架空事例を用いたロールプレイを行った。オンライン上ではあったが、対応の振り返りや受検者の立場を疑似体験する機会となったなどの感想が多かった。

## 4) 全職種を含めた研修会（包括カウンセリングセミナー：広島県臨床心理士会主催）

開催日：2022年2月12日。オンライン（Zoom）開催。象者は、中国四国ブロック内の中核拠点病院及び拠点病院のうち、HIV診療を行っている医療機関とした。今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルスの流行状況であることから、オンライン形式に変更して開催した。今年度は11施設、54人の参加者があった。オンラインという制限がある中でも各症例や今後の対応について理解を深めることができたと考える。

## [2] エイズ関連の教育資料

### 2-1. 小冊子・パンフレット等（図6）

「よくわかるエイズ関連用語集」を5年振りに改訂し、Ver.9として作成・発行した。また「血友病まね～じめんと」も新規薬剤の追加記載や、“定期補充療法”が“出血予防療法”と呼称が変更されたことによる改定が必要となったため、第7版として改訂・発行した。さらに、“診療におけるHIV-1/2感染症の診断ガイドライン”が2020年度に改定されたため、「HIV検査について」の内容も改定が必要となった。HIV-1/2抗体確認検査法（商品名：Geenius HIV-1/2キット）の追記、その他データの刷新を行い、Ver.10として改訂・発行した。

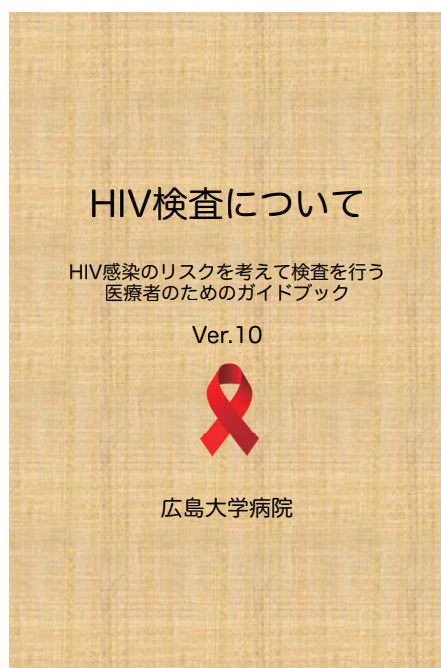


図6 発行した小冊子・パンフレット



[3] その他医療体制の構築に関する取り組み

3-1. 中四国エイズセンターホームページ

(http://www.aids-chushi.or.jp) による情報発信  
 本院主催の会議や研修会の様子を掲載した。また後述する小冊子の案内や、中国四国地方で行われるエイズ・HIVに関する研修会・イベントの案内、血友病薬害被害者対象検診外来のお知らせ等を掲載した。薬害の有無にかかわらず、出血傾向のある血友病患者には、筋肉注射は禁忌とされているが、新型コロナウイルスワクチンは筋注のため、その接種における注意事項、対処法などもトップページに掲載した。引き続き多くの閲覧が得られている（2021年1年間の閲覧数173,691回）。

3-2. 患者受診・服薬支援アプリ（せるまね）

3年前からリリースしているセルフマネジメントを目的とした携帯用アプリである。連続服薬記録に応じた花の育成アニメーション、新薬の追加、防災情報、連続服薬率のグラフ化、カレンダーアプリとの同期等の改修を行いリリースした。また、次年度のアップデートに向けた機能の見直しを行っている。

3-3. 非職業的曝露後予防内服（nPEP）

2019年4月1日より開始している。今年度もコロナ禍の影響もあり、希望者は少なかったが県内から2人の受診があり、抗HIV薬の処方を行った。この2人共感染は確認されていない。

3-4. 薬害被害者検診外来

2018年度より薬害被害者からの要望を受けて「血友病薬害被害者対象検査入院」を行っているが、2020年度から入院費用を全て研究費で工面し、かつ本院までの交通費も補填することとしている。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、2020年は1人の希望者に留まった。今年度も同様の状況が続くと判断したため、本院通院患者を主な対象として「血友病薬害被害者検診外来」（以下、検診外来）を開始した。（図7）

2019年度より、薬害の有無にかかわらず成人血友病患者を対象に「包括診療外来」を行っていたため、前年度はそちらを受けていた者が多く見られた。そのため、非薬害被害者との差別化を図るため、検診外来では“費用は研究費で賄う”“保険診療では査定を受ける腫瘍マーカーのフルチェックやPETを行う”こととした（表2）。2022年2月迄に5人の受検者があった。

血友病薬害被害者対象検診外来

**検診外来申込書**

宛先：広島大学病院 エイズ医療対策室  
 FAX：082-257-5351

郵送先：〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3  
 (FAXまたは郵送にてお申込みください)

ふりがな			性別
お名前			男性・女性
生年月日	年 月 日 ( 歳 )		
ご住所 (ご自宅)	〒 県		
電話番号 (携帯)	(自宅)		
希望コース	*希望コースに○を付けてください。Cコースは希望検査にも○を1つ付けてください。 A・B・C (①冠動脈CT ②腹部エコー&消内診察 ③頭部MRI ④PET)		
検診希望日【1回目】	第一希望 年 月 日 ( )	第二希望 年 月 日 ( )	
検診希望日【2回目】	第一希望 *Cコースの方は不要 年 月 日 ( )	第二希望 年 月 日 ( )	
検診外来で特に調べてほしいこと *当てはまる項目に○を付けてください (複数回答可)			
関節・歯科・認知機能・その他			
具体的に気になる事をご記入ください			
【申込医療機関】所在地			
		名称	
		電話	
		医師名	科

※ お送りいただいた個人情報の取り扱いについては厳重に管理し、同意なしに第三者に提供することはありません。

図7 薬害被害者検診外来のチラシ



表2 血友病薬害被害者対象検診外来のスケジュール

**Aコース:初めての方向け**

	受診1回目		受診2回目
午前	看護師面談 採血・検尿 関節レントゲン・エコー*1	午前	PET
午後	身体機能評価(入院棟5階) PWV/ABI・骨塩定量 頭部MRI	午後	歯科検診(歯科未受診者) ワーカー面談 医師診察・結果説明

**Bコース:検査入院経験者向け**

	受診1回目		受診2回目
午前	看護師面談 採血・検尿 関節レントゲン・関節エコー*1	午前	PET
午後	身体機能評価(入院棟5階) 骨塩定量・頭部MRI(前回有所見者)	午後	歯科検診(歯科未受診者) ワーカー面談(希望者) 医師診察・結果説明

**Cコース:期間中1回しか通院できない方向け**

	受診日
午前	看護師面談、採血、関節エコー、関節・胸部レントゲン
午後	身体機能評価(入院棟5階)、その他希望検査*2、ワーカー面談、医師診察・結果説明

**D. 考察**

研修は、例年通り各職種別に年間最低1回は行っているが、今年は前年に引き続きコロナ禍が続いていたため、四国地方の医師・看護師向けの研修会（略称：四国講習会）や、看護師向けアドバンストコース研修会は開催しないこととした。それ以外の研修会についての考察は以下の通りである。

**医師向け研修会：**

本年度は初めてオンラインで研修会を行ったが、研修参加者はHIV感染症診療の初心者であるため、やはり実地で患者さんの実情を知ることが大切であると思われた。一方で、中国・四国地方を対象に参加募集を行った場合、地理的な問題もありオンライン研修会の方が、参加者の利便性が高いので、参加人数が増える可能性もある。ただ、この研修会の目的は、“HIV診療を適切に行うことのできる医師の育成”であるため、メリットとデメリットをあらためて検討し、次年度の開催形態を考えて行く必要がある。

**歯科医師向け研修会：**

コロナ禍の中、2つの研修とも参集で行うことができた。中国・四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構

築のための研究会議においては、新たに1つの県（山口県）から、1年以内に構築予定であるとの報告があった。このように、全県構築実現に向けて本会議・研修の果たす役割は大きいと考える。また一般開業歯科医向け研修会は、歯科医療従事者のHIV感染症への理解を促すことがHIV診療拒否問題を解決するうえで重要な役割を果たすことが確認できた。

**看護師向け研修会：**

アンケートの自由記載の中で、「患者さんや当事者の方から体験談を聞き、大変勉強になった」の記載が次に多くあったことから、実際の患者や当事者による講義は、看護師にとって興味深く貴重な経験となり、また有益な情報を得ることができる大変意義深いものであることが推察される。次年度も患者さんの生の声を聴けるプログラムは継続し、より一層の充実を図る意義があると考えられる。

また一方で、「参加者同士で交流できる場があった方がいい」との意見があった。来年度はオンライン開催となっても、参加者同士の情報交換や今後の連携に繋がるような参加者同士が交流できる場を提供できる内容をプログラムの中を含むことがより充実した研修のために必要と考える。そのため、次年

度の課題として、引き続きコロナ禍であってオンライン形式の研修会となっても、プログラムにグループワークなどを取り入れ、参加者が交流できる機会を作ることが挙げられた。

#### 薬剤師向け研修会：

新型コロナウイルス感染症の影響を受け2年続けたWEB開催となったが、中四国ブロック以外のブロックからも参加することが可能であり、全国から参加者があった。長期療養時代のHIV診療においては、併存症を持つHIV感染症患者が増えることが予測される。薬剤師においては、ポリファーマシーや薬物間相互作用、アドヒアランスへの支援、薬剤師間の連携など、活躍の場がさらに広がることが感じられる研修会であった。次回以降は集合型研修かWEB開催か未定であるが、薬剤師の知識のアップデートや薬剤師同士でのディスカッションを行える機会を創出していきたい。

#### 心理職向け研修会：

この度は、オンライン開催で行った研修会が多くあったが、事例検討など患者のプライバシーに関する議論はオンラインで行うことが難しい面もあった。それを解決する方法として、参加者には事前に資料を郵送し、かつ会終了後には確実に資料を返送する形を取るなど、プライバシーに十分配慮した方法をとった。事前・事後アンケートを比較した結果から、HIVカウンセリングの基礎を網羅的に学ぶことのできる機会となったと考える。また今後は、例えオンライン研修となっても前述の様な配慮を行いつつ、集合型研修会と同じ質を担保できる研修会を行っていきたい。

#### 福祉職（MSW）向け研修会：

オンラインにおける事例検討では、前述の心理職向け研修会と同様のプライバシーに配慮した方法をとった。このような開催形態は、現地へ移動しなくても研修を受講できるので、受講者には大きなメリットと考えられるが、患者の事例検討については、今後も患者のプライバシーがネットへ漏洩するリスクがあることを踏まえ、その防止策を行いつつ続けて行きたい。また患者の高齢化に伴い、慢性期の診療にあたる慢性療養病床保有病院、介護施設、在宅へと、その診療の場がシフトしていく。それらを踏まえ、今年度の出前研修のように、障害者福祉施設や透析施設などの職員に対しても、エイズに対する正しい知識の普及と患者を安心して受け入れていただくための働き掛けを地域の中核拠点病院、エイズ

拠点病院と連携して進めて行く必要がある。

#### その他の取り組みについて：

ホームページの閲覧数は、昨年に比べて約1.5倍に増えた。新規コンテンツとして、エイズDEクイズや、新型コロナウイルス関連の情報をアップしたことが要因と考えられた。

教育資料として、今年度は「よく分かるエイズ関連用語集」を5年振りに改訂した。この用語集は、改訂されるにつれ関連する内容が次々と追記されていき、内容も関連する事項を全て網羅する『エイズ事典』のようになっていた。そのため、エイズに直接関連のない語句が掲載されていたり、筆者の専門領域以外の用語の記述が古くなっていたりした。こういった理由で今回の改訂では、エイズ診療に直接関係のない用語は大幅に削除したので、より使いやすい、見やすい用語集となったと思われる。

## E. 結論

ブロック内のエイズ拠点病院に対する職種別研修は、内容や対象者を再考しながら常にアップデートしていく必要がある。また研修会開催形態も、その時々事情により柔軟に変えていくべきである。さらに、拠点病院以外の非拠点病院の医療従事者や介護施設の従事者に対しては、病状が安定している患者の受け入れ拒否がないよう、小冊子を作成して非専門病院・施設に配布し、かつオンラインでの開催形態を含む「出前研修」を頻繁に行うことで理解を促していく必要がある。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

- 1) Teruhisa Fujii, Yuko Kidoguchi, Noriko Takahashi, Eric Yu, Dilinuer Ainiwaer, Aidan Byrne. Budget impact analysis of Jivi® (damoctocog alfa pegol, BAY 94-9027) in severe Hemophilia A in Japan. *J Med Econom* 24:1;218-225, 2021.
- 2) 藤井宝恵、柊中智恵子、兵頭麻希、折山早苗、藤井輝久：血友病保因者への遺伝カウンセリングの実態. *日本遺伝看護学会誌*. in press, 2022.
- 3) 井上暢子、山崎尚也、梶原享子、藤井輝久：抗ウイルス療法開始後に自己免疫性溶血性貧血を発症したHIV感染症の一例. *日本臨床検査医学会誌*. in press, 2022.

## 2. 学会発表

- 1) 藤井輝久、井上暢子、山崎尚也、柿本聖樹：広島大学病院通院中のHIV陽性者におけるSARS-CoV2抗体陽性率の調査。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 2) 山崎尚也、井上暢子、柿本聖樹、藤井輝久：抗レトロウイルス療法のレジメンの違いによるウイルス検出の差異に関する検討。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 3) 井上暢子、松尾佳美、佐々木美希、大成杏子、杉本悠貴恵、田中まりの、石井聡一郎、山崎尚也、齋藤誠司、高田昇、藤井輝久：抗HIV薬により薬剤性IgA血管炎を呈した一例。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 4) 石井聡一郎、阿部憲介、槇田崇志、大道淳二、近藤旭、藤井健司、田中まりの、大東敏和、藤井輝久、畝井浩子、矢倉裕輝、松尾裕彰：学校薬剤師による性感染症教育の現状調査－HIV感染症専門薬剤師と連携した啓発活動を目指して－。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 5) 後藤志保、佐々木美希、山崎尚也、井上暢子、重信英子、大成杏子、喜花伸子、杉本悠貴恵、高田昇、藤井輝久：看護師のHIV感染症患者のケアに対する不安要因と研修の効果－HIV/エイズ出前研修アンケート結果からの検討－。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 6) 重信英子、大成杏子、杉本悠貴恵、喜花伸子、佐々木美希、後藤志保、獅子田由美、田中まりの、藤井健司、石井聡一郎、大東敏和、柿本聖樹、井上暢子、山崎尚也、齋藤誠司、高田昇、藤井輝久：HIV陽性者の経済的背景と受診行動。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 7) 菊地正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、湯永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、森治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、山本政弘、松下修三、饒平名聖、健山正男、藤田次郎、杉浦互、吉村和久：国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 8) 宇野俊介、菊地正、林田庸総、今橋真弓、南留美、古賀道子、寒川整、渡邊大、藤井輝久、健山正男、松下修三、吉野友祐、遠藤知之、堀場昌英、谷口俊文、猪狩英俊、吉田繁、豊嶋崇徳、中島秀明、横幕能行、岩谷靖雅、蜂谷敦子、湯永博之、吉村和久、杉浦互：E157Q変異を有する未治療HIV-1感染者におけるインテグラーゼ阻害薬をキードラッグとした抗HIV薬開始後の臨床経過。第35回日本エイズ学会学術集会・総会。2021年11月21日～12月20日。東京&WEB
- 9) 井上暢子、原武大介、浅野俊太郎、槇坪良時、松石莓子、柿本聖樹、河原章浩、伊藤公訓、藤井輝久：ST合剤により薬剤性重症横紋筋融解症を起こした症例。第125回日本内科学会中国地方会。2021年11月6日～7日。WEB開催

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

## 1. 特許取得

なし

## 2. 実用新案登録

なし

## 3. その他

なし